

第4回滋賀県産業振興審議会 会議議事録

1 日時

令和元年8月2日（金）10時00分～12時00分

2 場所

ホテルピアザびわ湖 6階 クリスタルルーム（滋賀県大津市におの浜1-1-20）

3 出席委員

【委員】安達 みのり委員、飯田 敏之委員、大日 常男委員、上村 透委員、
小玉 恵委員、西藤 崇浩委員、高橋 康之委員、田口 一江委員、
田中 弘美委員、田中 美咲委員、辻田 素子委員、夏原 行平委員、
平尾 道雄委員、廣川 能嗣委員、松井ライディ貴子委員
（18名中15名出席）

【オブザーバー】滋賀県商工会連合会、滋賀県中小企業団体中央会、
一般社団法人滋賀経済産業協会、公益財団法人滋賀県産業支援プラザ、
日本労働組合総連合会滋賀県連合会

【県】森中商工観光労働部長、中山商工観光労働部理事、他関係職員

※ 敬称略、五十音順

4 内容

■開会

（1）森中部長あいさつ

・第4回滋賀県産業振興審議会を開催することができましたことにつきまして、御礼申し上げます。

・前回ご議論いただいた骨子案から各経済団体や市町の意見を盛り込み素案をお示しさせていただき、皆様と意見交換をさせていただきたいと思う。

■議題

（1）滋賀県産業振興ビジョンの素案について
（資料2および3に基づき事務局から説明）

（会長）

・それでは、素案に関する意見交換、議論の時間としたい。については、論点ごとに皆様か

1 らご意見、ご質問を頂戴し、議論を進めてまいりたい。

2
3 ●論点1 チャレンジする人・企業が集まる

4 (会長)

5 ・前回滋賀県の開業率の低さについて言及され、持続的な発展のためにはこの問題の解決
6 が重要であろうという指摘があった。滋賀県の2030年の将来像を描く際に、滋賀県に人や
7 企業が集まるとはどのようなイメージを考えればよいのか、その実現のためにどのような
8 施策を考えていったらよいのか、といった点についていかがか。

9 (委員)

10 ・滋賀は保守的である。金融機関という立場で色々なお客様と接する機会があるが新規の
11 開業・第二創業についてリスクを取る人が少ない。開業には資金が必要になってくるため、
12 公的な機関、例えば滋賀県信用保証協会で制度が用意されているが、知らない人が多い。
13 民間の金融機関および県でも積極的にPRしていきたい。

14 ・開業した後のフォローが一番大事であり、成功してはじめて開業の価値がある。開業し
15 た後のフォロー制度を充実していけば開業しやすい環境作りができるのではないか。京都
16 では大きい企業も元々はベンチャー企業であり、一個人から始められた企業はたくさんあ
17 った。そういった意味で京都と滋賀県と比較して見劣りする。そこを金融機関だけでなく、
18 地域の商工会議所、市町、そして県、大学と積極的にタッグを組むことで、いい方向に進
19 むのではないか。

20 (会長)

21 ・前回の審議会で滋賀県は起業しにくい環境であるご指摘いただいたが、2030年にどの
22 ような分野の企業が集積する姿をイメージしたら良いか。例えば集積は県内の企業が集積
23 するイメージや県外から入って頂き集積するイメージもあり、2つの観点で言えばどうす
24 れば課題を達成できるイメージがあるか。

25 (委員)

26 ・「滋賀を実証実験のフィールド」にも関係するが、現時点で滋賀にイノベーターがいない
27 のであれば外から取り込み、実施しやすい環境を作っておくという場作りに徹底すればど
28 うか。実証実験を行うにも承認がたくさん必要であったり、チャレンジしたくても条例だ
29 ったり、ここの区域は誰が責任を持っているのか、というところで話もできない環境が日
30 本中どこにでもある。そこで承認が一番下りやすい県というのがあると、外部の人として
31 はチャレンジしやすいと思う。

32 ・起業家育成として革新者の創造というところは素晴らしいが、どうやって生み出すのか、
33 どうやって教育するのか、というところが一番重要。例えば学校教育の過程でさえ、新し
34 いアイデアを生み出したり、マイノリティを排除するという文化がまだまだ根付くなかで、
35 チャレンジしにくい環境はたくさんあるのではないかと思う。例えば、シンガポールだっ
36 たり、グリーンスクールだったり、レヅジョ・エミリア、モンテッソーリみたいな教育の

1 仕方そのものの根本解決をしないと今後 10 年、20 年先にはイノベーターがいなくなり、チ
2 ャレンジする人が滋賀から抜けていくこともあると思う。応援するだけでなく、人材輩出
3 の段階から変えるというところを検討したほうが良いのではないかな。

4 (会長)

5 ・他にご意見はあるか。

6 (委員)

7 ・地域にはまだまだ潜在するスキル、キャリアを持っているお母さんがいる。そういう人
8 が集まりやすい場作りが必要だと思う。銀行や商工会等、起業支援の場はあるが、なかな
9 かそういったお母さんと結びつかない現状がある。子育てを続けて社会から孤立を感じる
10 女性たちはそこに一歩踏み出す勇気がとてもいるが、支援して頂ける組織や人はいるもの
11 の、なかなか繋がっていない状況があると感じている。

12 ・私は、一歩踏み出しやすい緩いコミュニティの場づくりを大事にしている。いつも頑
13 張るところではなく、ちょっとしんどいなという思いを共有、共感できる場作り。本当に
14 小さいコミュニティだが、銀行とも繋がりを持っている。何か一緒にできることがあれ
15 ば起業したいと思っている女性たちをどんどん応援できる仕組みができるのではないかな。

16 (会長)

17 ・他にご意見はあるか。

18 (委員)

19 ・意欲のある人たちを呼び込む力を滋賀でどう作っていくか、どう分かりやすくそういう
20 人達と結びつけるかが重要。近くに京都、大阪、兵庫、そして名古屋がある。これはチャ
21 ンスでもあるが大変な競争環境のなかに挟まれているため、どう差別化するか、都心部で
22 はなく滋賀の何を選んでもらえるかがはっきりしていなければ、結果的にここにチャンス
23 を見出そうという人を呼び込むことは実現しないのではないかな。

24 ・国のように全方位で行うのではなく、滋賀県でいえば環境、観光、健康等、これまで培
25 ってきたものや他県にない強みとしてフィールドをどう整えるのかということが、強みを
26 伸ばすということにもなり、そういったものがより一層際立って行ってこそ、色んなチャ
27 レンジをする人が滋賀を選んでもらえるという結果に繋がってくるのではないかな。

28 ・また、2025 年大阪・関西万博が大阪で開催されるので、県をあげて万博に向けて何をア
29 ピールしていけるか、どういう実績を外に発信していけるかを考えると、これまでやって
30 きたことをより伸ばして人を呼び込み、短い期間の中で実績を作れるということをもって
31 万博、2030 年に向かっていくのがベターなのではないかな。

32 (委員)

33 ・滋賀県は世界中の憧れだと思う。近江八幡の水郷めぐりの船に乗ったが、こんな現実か
34 ら切り離された空間がそこかしこにあり、そういうことは我々にとって憧れである。

35 ・カリフォルニアにあるモンレー湾は、19 世から 20 世紀のはじめに鯛がとても獲れたが
36 乱獲で随分荒れた。そこでヒューレッドパッカードがお金を出して、モンレーベイ水族

1 館を作った。その水族館は子供に向けて太平洋の魚や環境を分かりやすく説明している。
2 入館料は非常に高いが皆行きたいという。子供が行ったらずっとそこに居たいと言う。さ
3 らに研究所が併設されていて、海洋環境や水の研究をしている人の憧れの研究所となっ
4 ている。

5 ・滋賀県は水の恵みがあり、そこで暮らしてきた人はその恵みを受けながら守りながら産
6 業や生活の質を磨いてきた。若い人はサステイナブルや環境に大変敏感であるから、これ
7 ほど世界的に水に恵まれたところはないので、それをとても大事にしているというメッセ
8 ージを発信するのが、まず良いのではないか。

9 ・そのために淡水に関する誰もが来たいと思うシンボリックな水族館を造る。例えば水に関
10 係する国際会議場を作り、子供を育成するために子供が留学できる施設を造る。どうし
11 も来たいという、今滋賀が持っておりとても大事にしているというイメージを発信するこ
12 とが大事ではないか。それに対しては、世界中の課題、水をいかに確保するか、今までの
13 産業もこれ以上環境に負荷をかけないように水を確保する、というようにビジネスに全部
14 繋がる。シンボリックな誰もが来たいという大きな水族館等を造り、滋賀が大事にしてきて
15 恵みを受けてきたものを科学的に解明することで、ビジネスに結びつけることができる。

16 (委員)

17 ・滋賀県は京都、大阪、名古屋から近いというのはチャンスでもあるが危機でもあるとい
18 う話があったが、近畿のなかでどういう位置づけにありたいか。日本、世界の中でどうい
19 う位置づけにありたいか、というのが2030年の姿ではないかと思う。

20 ・2030年は私たちの価値観とは全然違うものが世の中を支配しているだろう。よく経済関
21 係の講演をするときに、1970年は大阪の経済のピークであり、そこからどんどん下がって
22 きたと話す。同じことが2025年でも起きうる。

23 ・これからオリンピックが終わり2025年に向けて関西がどんどん盛り上がっていくが、そ
24 の後それをどれだけキープをするか、もしくはそこから更なる新たな分野に挑戦してい
25 か、私たち一人ひとりが考えていけないなかで、滋賀県の位置づけ、働き方や
26 目指すべき幸福の価値観も変わるだろう。例えば年収は低くても良いから週3日しか働か
27 ない生き方を選ぶ若者、幸せな人もいて、もっと言うと1日3時間だけ働きたい、子供が
28 学校に行っている間だけ働きたい、といった人達が皆幸せになるために、滋賀県という場
29 所は実は強みではないか。週3日しか働かない人や1日4時間しか働かない人が2倍にな
30 ったら、労働力は変わらない。

31 ・レジャーや自分の生き方とか地域密着とか、通勤時間0を実現できる強みが、大阪から
32 見るとある気がしている。大阪、京都、東京でなぜあれほどベンチャーが成功するかとい
33 うと、失敗しても紛れられるからである。ところが滋賀県では、身近な人がまわりに居る
34 中で失敗したら目立つ。その価値観や考え方の切り替えを、地域、自治体、金融機関も
35 できれば、2030年に向けて色々な若者がチャレンジしにくる場に出るのではないか。小
36 学校の子供たちに、失敗しても次同じことをしなければそれは偉いことであると育てるチ

1 ヤンスがまだ10年あるから、そういうことを見据えながら地域も新しいチャレンジする人
2 をどんどん応援できる形になっていけばいい。

3 (会長)

4 ・私たちも変わっていかないと全然変わっていかない。価値観が10年後、20年後どうなる
5 かはとても重要である。競争社会が続くのか、自分の生活をしっかり中心に据えるのか、
6 という点はもう少し議論が必要である。

7 ・他にご意見はあるか。

8 (委員)

9 ・全方位ではなくチャレンジする分野を絞り、滋賀に行けば技術や人や企業や行政を含め
10 た仕組みがあるということが知れ渡れば自然と人が集まるのではないか。

11 ・当社では技術も人も仕組みもないので、シリコンバレーに人を派遣している。会社の話
12 をすると、アイリスオーヤマは1年間に1,000アイテムも新商品を出しており、私たちも
13 既存商品の開発のウェイトを減らしても新商品開発にリソースをシフトしている。また、
14 今までは他社に開発していることをクローズドにして商品開発をしていたが、こういった
15 やり方から一歩踏み出してみた。CEATECで8割技術を展示している。ユーザもいるが競合
16 他社もおりリスクではあるが実行した。そういったユーザの声を聴き、商品開発に活か
17 すやり方で商品が3つ4つできている。要は、連続的に挑戦できる仕組みができればよい。

18 (会長)

19 ・その他にご意見はあるか。

20 (委員)

21 ・チャレンジというキーワードでいうと全方位的な視点も必要とは思うものの、もし世界
22 から選ばれるためのキーワードがあるとすれば、それは自然、水だろう。

23 ・たねやでは、ユニークな自然一杯の施設を造り、新しい方々が、これまでであったもので
24 あるものの新たな価値に置き換え、それを魅力的に感じ人が集まってきていると思ってい
25 る。そこには苦労もあり、地域の方々も含め、色々な協力のもと運営している。多様性を
26 受け入れる風土においては、色々な方々がオープンになって過ごせるプラットフォームを
27 作り、今ある地域の方や滋賀の方が守ってきた価値を、守られた方々に認識していただく
28 場を含めて注目される豊かな自然を、外からくる方と一緒に、今まである既成概念を壊し、
29 再発見していただく効果を感じてもらえるといったところが見えると、皆さんに向けての
30 ビジョンとして具体的なものを示せる。

31 (会長)

32 ・滋賀の魅力である環境、自然をいかに発信できるかが一つのポイント。付け加えると食
33 べ物もあるだろう。5年、10年という短期間でマインドまで変わることは難しい部分もあ
34 る。まずは短期的にシンボリックなものをどう作るか、いかに人に来てもらうか、そして
35 長期的にはマインドや価値観を変える、全方位的にチャレンジが集まり時間はかかるが変
36 えていく、といった段階的な取組が必要である。

1

2

3 ●論点2 滋賀を実証実験のフィールドに

4 (会長)

5 ・先ほどの説明にあったように大学・市町・企業等多様な主体による新しいテクノロジー
6 等を活用した実証実験の場の提供や特区制度等に見られる規制緩和の取組の推進等が考え
7 られるが、ご意見はあるか。

8 (委員)

9 ・4つの方向性のなかで「実証実験のフィールドに」を一番進めるべきと思っている。いま
10 まや良いものを作るだけでは世界で戦える時代ではない。仕組みやプラットフォーム、ビ
11 ジネスモデルの中で仕事を行う必要がある。

12 ・いまだに良いものを作れば良いと考えられている方も多いが、そういう中で滋賀発を考
13 えると、滋賀の強みである地理や人を活かすという意味では、「実証実験のフィールドに」
14 がキーポイントになると思う。

15 ・実証実験という言葉は狭すぎる。ビジネスモデルやプラットフォームを作り上げないと
16 大きな産業や世界で戦うことができない。そういった意味で実証実験においてはビジネス
17 モデルやプラットフォームを作り上げるために滋賀の場所を使ってもらおうということをや
18 るべきである。

19 ・東京や韓国や中国に実証実験をやりたい人は多くいるので、一緒にビジネスを立ち上げ
20 る実験をする。理論や技術を検証するだけでは意味がない。自動運転ではMaaSの中の一部
21 であって、ビジネスモデルをプラットフォームを作る場所、ということをやれる滋賀県、
22 地理的にも非常によく、自然も都会も田舎もあり、東京からも近く、データの通信はすべ
23 て滋賀県を通っているなので、そのようにやれればと思っている。

24 ・実証実験を狭い意味ではなくて、ビジネスを実現するために滋賀の場所を使うことでチ
25 ャレンジする人が必ず集まってくるので、一緒に立ち上げる、うまくいけば他県や海外に
26 持ち出せる。

27 (会長)

28 ・その他にご意見はあるか。

29 (委員)

30 ・国で企業実証やグレーゾーン解消制度というのを設けている。法令に違反しているかど
31 うか良く分からないことは世の中に多くある。家電メーカーが新しい物を作ろうとしていた
32 例でいうと遠隔で自宅の家電製品をコントロールしようとするときに、製品安全の関係や
33 電気の事業法の関係で、せっかく製品ができ上がっても後から国が違反しているから製品
34 化は駄目であると指摘すると、企業はそこまで一生懸命かけた経費が無駄になる。

35 ・我々はこんなことを考えているが、こんなことしてもよいかとご相談いただくと、国は
36 できてから持ってきてくださいということも多い。企業実証特例制度というのは、私たち

1 は、こういうことをこれだけの安全対策をしてこの場で実証実験をしたいからいいですか、
2 とあらかじめお問い合わせをしていただき特例的にこういうことを許可するというもので
3 ある。例えば、道路交通法には若干問題があるが、こういう安全対策をするのでこんな自
4 転車で宅配便を配送する場合、アシスト力の強い自転車でリヤカーを引く取り組みを許し
5 ましょう、ということが現実にある。

6 ・このように申請することは、若い方やベンチャーの方は大変である。それを含めて支援
7 する。滋賀県で色んなことをチャレンジする手助けをするというのが行政の役割としてあ
8 る。あまりにも安全を言い過ぎて何もできない世の中になってしまっているが、負うリス
9 クを含めて安全対策はしっかりと行い、何かものすごいチャレンジができるような場作り
10 が必要。自分達の責任でこれはやっていきたいという人達が集まったときに、なんでもか
11 んでも駄目ではないような場を用意する。それは皆が腹をくくらなければならないが、き
12 ちんと安全対策をした上で色んな実験ができる場があったらいい。やってみないと、とい
13 うチャレンジを許せる場ですよと打ち出すことも意味がある。

14 (会長)

15 ・その他にご意見はあるか。

16 (委員)

17 ・他府県でもいろいろ取組をされているなかで、優先して滋賀に来てもらう視点が必要で
18 あると思う。水ビジネスがあり、自然があって都市圏からも近い、といった話も出ていた
19 が、滋賀の強み、良さを活かした中で他府県では足かせになっていることが滋賀であれば
20 チャレンジすることが可能なことを考えられないか。どこの県でも同じようなことをして
21 いては同じようなことになる。

22 ・キーメッセージの流れで資料が作られていると思うが、キーメッセージにある、チェン
23 ジに向けてチャレンジ!、だけだと県として何をしていくのが見えにくく、県は何を目指
24 すかを、県が中心になっていくこと、例えば県は新しいことをチャレンジする環境を整備
25 する、といった視点を入れるべきである。

26 ・資料に革新者とあるが、イノベーター等一部の人のみが何かをしているというのは違
27 と感じる。2030年に向かって環境が大きく変わる中で、持続可能な成長を目指していくた
28 めに全ての人を取り組まなければならない。全体的に一部の方だけを対象としているよう
29 な内容になっているのではないかという感じを受けるので、キーメッセージのところ
30 の後に出てくる内容をサブタイトル的に入れ、滋賀県に居る人全てに関係していること
31 を出していくべきである。

32 (委員)

33 ・滋賀経済同友会では「革新者創造部会」と言う革新者創造の「場」造りを行っている。
34 これからの学生、卒業した人がベンチャーを起こしたいという心になってもらうための「場
35 づくり」として部会を開催している。あるテーマに関して若者・経営者等がそれぞれの意
36 見を出し合い、結論を出さない、まとめない、ただこういう話があったという報告を各

1 ループ毎に発表し、それぞれの世代や各地域の意見の多様性を認め合いそして今後どのよ
2 うにすべきか等体験して頂いている。

3 ・シリコンバレーではアントレプレナー（起業家）育成の為のシステムとして、一つの
4 机だけで月 5,000 円か 10,000 円かかるが、そういう連中が集まってくる。そこでは異業種・
5 異人種が事業を興そうとの志を持った若者達が、個々人がアイデアをぶつけあうことで、
6 それぞれ持っているものをつなぎ商品、システム、ビジネスモデルが作られている。そこ
7 には既存の企業の新規事業、ニュービジネスチャンス等の可能なプラットフォーム（社会
8 基盤）造りが必要だと考える。目的は学生が卒業し滋賀県で事業を起こしてもらい、とい
9 うことがある。ハーバードでは一番頭がいい人は起業する、二番目の人は大企業に就職す
10 る、三番目は公務員になる。できのいい人は起業する、そのような挑戦する事が大切であ
11 ると言う価値観を日本でも育てないといけない。滋賀への既存企業の転入を期待する事も
12 大切であると同時にアントレプレナー達の多くの起業に期待したい。

13 （会長）

14 ・ビジネスモデルあるいはプラットフォームをいかに作り上げるか、ビジネスをいかに立
15 ち上げるかが重要であり、そこに滋賀県がどのように具体的に関わってくるのかが見える
16 形にしなければならない。

17 ・例えば特区制度でいえばどこまで規制を外してよいのか等が重要になっていく。既にあ
18 るビジネスも色々変えていく、あるいはどのように盛り立てるか、といったことも必要
19 になっていく。規制を外すだけでは駄目かもしれないが、どこまで腹をくくるのか、とい
20 う点が一番重要かと思う。

21 ・起業の部分では、種が出てきてもそれをいかに育てるかということも必要で、これを実
22 証実験のフィールドとして位置づけられるかも重要。

23

24 ●論点3 健康しが、をビジネスに

25 （会長）

26 ・次に、3つ目、「健康しが、をビジネスについて」である。健康しが、とは造語になっ
27 ており、簡単に説明する。健康しがとは、「人・社会・自然の健康」の3つを柱とした滋
28 賀県内の健康に関する取組である。私なりに理解すると次の通りである。人の健康は、心
29 の健康、体の健康、人が健康に生活できる健康寿命もある。社会の健康とは、明るい社会
30 であること。自然の健康とは、自然そのものが健康であること。自然というのは、例えば
31 山を放置しておけば自然環境が良いかと言えばそうではなく手を入れなければならない。
32 雨が川に流れて琵琶湖を良くするといった自然の循環を我々もしっかり理解しながら自然
33 の健康を維持していく、といった様々な視点がある。そういう観点も踏まえて、ご意見は
34 あるか。

35 （委員）

36 ・健康しがは海外とも繋がってくると感じている。特に滋賀県は琵琶湖を中心とした色々

1 な文化や生活、自然がありとてもテーマやストーリーを作りやすい土地であると感じてい
2 る。

3 ・ツーリズムの世界で、ウェルネスやリトリートといった都会の喧騒から離れて、健康や
4 癒しを求めてくるという観光が、世界的には進んでいるが、国内で前面に出しているところ
5 は少なく、滋賀はウェルネスやリトリートといった観光に非常に向いている。

6 ・先日、山田桂一郎氏というスイスで活動しており、観光のカリスマと呼ばれている方が
7 米原市にこられて話を聞く機会があった。スイスのツェルマットという場所は、アルプス
8 の山間の村で何も無いが何万人もの観光客が来ている。何を求めているかという、ドイツ
9 やフランス等の都会から来て癒しを求めている。なぜツェルマットが観光で成功したか
10 といえば、何も資源がなく自分達が生きていく糧は外からお客様を呼んで、経済を生むこ
11 としか生き残るすべがなかったためである。

12 ・滋賀県は全国的に恵まれていて、そこまでの必然性を感じられないが、私が感じたこと
13 はインバウンドや観光で人を呼びたいのであれば、どこかが一人勝ちするのではなく、例
14 えば米原だけでなく、彦根、長浜に全体的に来てもらう、といった皆の取組を一緒にやっ
15 ていく。つまり独占するのではなく共存していくことが大切で、その姿が従来の観光にな
16 い滋賀県だけの価値観として世界中に発信できる。

17 (会長)

18 ・その他にご意見はあるか。

19 (委員)

20 ・リニア新幹線が 2027 年には品川・名古屋間で開通し、2022 年には敦賀まで北陸新幹線が
21 開通することを米原市は大変注目している。敦賀まで特急しらさぎで 30 分、名古屋につい
22 ては新幹線こだまで約 30 分である。1 時間 10 分で米原から首都圏に行ける時代が 2030 年
23 までに来るということをしっかりと考えたいと感じている。

24 ・森林環境譲与税が既に始まっており、実際の徴収は 2024 年ころからになるが、一人当
25 たり 1,000 円の徴収であり、総額で 620 億円程度になると聞いている。実はこれが森林を持
26 たない都市にも 3 割交付されるという現実がある。なぜ申し上げているかといえば、米原
27 市に修学旅行で子供たちが来ている。都会の子が来ており子供たちが何を感じているか
28 というと、蛍がいるとか、夜は暗闇になるとか、星が綺麗に見えるとか、蛙がガヤガヤ鳴い
29 ているのは最初はびっくりしたとか、田んぼや小川に入るのに始めて長靴を履いたとか、
30 田舎のおじさん・お婆さんはものすごく親切で大事にしてくれるとか、食べ物は自分達で
31 作ることが分かったとか、え？と思うようなことが現実日本の国内で、地域間格差として
32 子供たちの育ちにすごい差が生まれているなど感じている。

33 ・滋賀県は憧れの地である。私たち田舎に生まれ育ったものとして、高度経済成長時代は
34 山ばかりで何も無いところですよと言ってきたが、いよいよ私たちは山があつて良かった
35 という時代にこれから入る。石炭でも石油でもなく、ましてや原子力でもない、自然生成エ
36 ネルギーという形でいうと、エネルギーや子育ての問題を含め、この田舎こそ、川があり

1 山がありそして田園風景が広がっている、さらに言えば琵琶湖という素晴らしいものを持
2 っている。

3 ・米原市は、限界集落において65歳以上の人が50%以上を超えて地域維持ができない課題
4 について、とんでもないと感じている。そこにこそ価値があり魅力があると頑張っており、
5 来てもらうだけで地域が元気になっていく。そこで産業を興さなくても空き家も林業も農
6 業もある。産業振興ということで、新製品を作るとか新しいシステムを作るとかというこ
7 とではなくて、使い勝手の問題、関わり方によっては十分人は来るし、そしてそこに幸せ
8 が生まれる。そういう産業を滋賀こそ興せる。

9 ・財源の問題においても都市部ではどう使ったらいいのかと悩み始めていると聞いており、
10 比良山系にも鈴鹿山系にも来てもらえれば、大自然の中で子供たちが学び体験できるとい
11 ったビジネスを作ることができる。その一環として私たちは登山、キャンプや自転車とい
12 った野外でのスポーツビジネスにかなり可能性を感じている。滋賀県の地場産業として、
13 本当の心も体もそして地域も健康になれるという好循環を作る産業振興を具体的に一つ
14 つ取り上げて欲しいと思う。

15 (会長)

16 ・その他にご意見はあるか。

17 (委員)

18 ・SDGs やサーキュラーエコノミーは地球中心に物事を考えられており、ここが今回のもの
19 と少しずれる、もしくはバランスをとらなければならない所かと思う。サーキュラーエコ
20 ノミーは地域経済循環という日本語訳ではなく、循環型経済と言われているので、地域密
21 着の視点だけだと視点が低すぎる。例えばごみの排出は、炭素税をどう付けていくかとい
22 う点も世界では既に動いているが日本ではできていないので、滋賀発で条例から始めると
23 世界的に注目されることになる。

24 ・企業も個人もB Corpの認証に向けて動くのも一つの手である。人・社会・自然の健康と
25 はいえ、人優先で物事は進んでしまうし、2030年までのゴールとしては、達成するのが人
26 の幸せのみだととてももったいないので、条例や認証制度を設けることから始めること
27 によりとてもスピーディーにゴールまで到達できる可能性があると感じる。

28 (会長)

29 ・人だけでなく社会・自然をどのように維持管理あるいは健康にさせるかという観点にお
30 いて、海の管理から山の管理から川の管理から全部含まれるので行政の得意分野である
31 と思うが、行政だけでは全く前に進まない。地域の方といかに連携できるかが一番のポイン
32 トである。地域の方がそこに魅力を感じていなければ力が入らない。魅力を感じ入りこみ、
33 魅力を発信すれば、その魅力でさらに人が集まってくるという好循環が生まれる。その循
34 環をいかに作るかということであつたと思う。

35

36

- 1 ●論点4 滋賀から世界、世界から滋賀へ
2 (会長)
3 ・論点1から3を含めて、「滋賀から世界、世界から滋賀へ」についてご意見はあるか。
4 (委員)
5 ・30年、40年、50年先を考えて、そこを目指すためにこれから10年何をするべきかバツ
6 クキャストイングして考えることで、自然と成功する可能性が高くなるのではないか。滋
7 賀の高校では先進的な教育を努力しており今は成果が出ているが、3年5年もすれば皆様
8 がキャッチアップしてしまう。
9 ・生き残るためには、一番大事で一番難しいことをなんとかキープし、サステナブルに
10 皆が残していき、一番難しい課題を明らかに挑戦している姿勢を持って努力すれば敬意も
11 得られるし人も集まってくる。
12 ・実証実験のフィールドというのものもあるが、高い所を目指せば、そこに来た人に教えるの
13 ではなく一緒に考え、一緒に解決していくなかで、実用化したりインフラを作ることもあ
14 るだろうが、根本はこれだけ恵まれた豊かな所で50年くらい先を見て、一番大事で一番難
15 しいことを考え抜いたらどうかと思う。
16 (委員)
17 ・これからは、「世界から滋賀へ」が重要である。チャレンジする企業が集まる等、色々な
18 アイデアが出てきたが、地域のメンバーだけでやるのは無理があり、近隣の大阪や京都等
19 を巻き込んでも、たかが知れていると感じる。もっと世界の色々な人達に来てもらい、滋
20 賀が抱えている先進的な課題にチャレンジし、解決してもらうことが大事ではないか。滋
21 賀のためになり、来た人達は新しいビジネスに挑戦できる。滋賀に元々いる人も関われば、
22 彼らにとっても大きなビジネスチャンスになる。
23 ・多様性という意味において、様々な国、文化、価値観を持っている方、できれば専門人
24 材と言われるような、特に滋賀の場合、新しいテクノロジーに関する人材が非常に弱い
25 ので、そういった部分に関する企業なり人なりに、外から積極的に関わってもらうことで、
26 全体をアップしていけば、新しい産業を作っていけるのではないか。
27 ・滋賀に行くと、例えば、水や健康に関連するいろいろなことに挑戦できるというインフ
28 ラを整備することが大事だと思う。あそこに行く学ぶことが多いと世界的に知られるよ
29 うになればよい。先ほどシンボリックな話があったが、私もシンボリックなものがあるとい
30 々と思っており、滋賀だったら、水だとか健康食品だとか環境だとかが想定される。それ
31 に関連して観光客が来てくれるだけでなく、それに付随するビジネスの人達も来て色々学
32 び、研究者もそこに来る。基本的にはグローバルな視点で様々な事業を展開するというこ
33 とが、結果的に地域の人達のイノベティブな精神を高めるということにも繋がるのでは
34 ないかと思っている。
35 (会長)
36 ・その他にご意見はあるか。

1 (委員)

2 ・デジタルトランスフォーメーションは重要である。インバウンド促進のためのキャッシ
3 ュレス、外国人材の受入、については日本にはハードルがある。様々な商店や事業者から
4 聞く話では、キャッシュレスの環境整備に向けて金融機関も様々な提案をするがなかなか
5 受け入れてもらえない。例えばQRコードを貼ってもらい日本のお客様も外国のお客様も
6 受け入れるという姿勢がなかなかひとごとのところが多く、もっと本腰を入れていかな
7 てはならない。

8 ・デジタルトランスフォーメーションは大きな話だけではなく、身近なところからIT化
9 やデジタル化を進めないと大変なことになると感じる。先ほど社会の健康という話があっ
10 たが、地域のコミュニティーが非常に弱体化している原因の一つはIT化やデジタル化が
11 進んでいないことだと言われている。自治会では70、80歳くらいの方がトップに立ってい
12 る所が非常に多く、新しいものについて行けず壁がある。若い方はスマホで様々なコミュ
13 ニケーションをとったりSNSで発信したり、お金の出し入れもできる。そういう世代が増
14 えているなかで、地域のコミュニティーが旧態依然としている。これは滋賀県だけではなく
15 日本全体の大きな問題であるが、2030年に向かって今までよりもっと早いスピードで
16 IT化やデジタル化が進むので、そこに追いついていかないと、いくらビジョンを立てて
17 も乗り遅れてしまうという危機感を行政だけでなく民間もしっかり持ち、もっと地域に働
18 きかけていく必要がある。

19 (会長)

20 ・その他にご意見はあるか。

21 (委員)

22 ・滋賀は魅力的な自然資源がたくさんある。たねやがある地域では1,000年以上続くお祭
23 りがあるのだが、各集落で行われていてオープンではなかった。お祭りは神事でもあるが
24 フェスティバルな要素として場を提供していただいた。地域の方のところに行き、お話を
25 聞きこんな素晴らしいものを是非見てもらわないかと提案したり、若い人が教えてください
26 といつてお願ひすると、一回しか言わないよとおっしゃっている方も、若い人と一緒にやると
27 どんどん元気になる。若い人が1,000年も続いていて継承しないのはおかしい、と私たち
28 も手伝って図解を作ったり、新しいファッション性の高いような発信力で、インスタグラ
29 ム等様々なSNSのツールで発信したりといったことをすることで、スマホを持たなかった
30 方がSNSを登録する動きがある。そういった何かキーワードとかやりたい気持ちを起
31 こしていただけるようなことがあると、人は動かされるのだと実感した。

32 ・世界から来てもらったときに、行政等の色々な人達の支援は必要ではあるものの、そこ
33 に住む人、暮らす人、企業、ご年配の方も若い方も一緒になって受け入れる風土を作って
34 いくことが最も大事で、難しく考えなくてもコミュニケーションという優しい取組でも同
35 じようなことができるのではないかと感じる。

36 (会長)

- 1 ・欠席された委員からキーマッセージに副題を入れてはどうかというご指摘があるが、ご
2 意見はあるか。
- 3 (委員)
- 4 ・チェンジやチャレンジという言葉には最初から引っ掛かかっている。チェンジは大分と
5 強い言葉で、ある意味過去を否定してしまう。勿論皆さん変わらないといけないという気
6 持ちは大前提としてあるのだが、チェンジという言葉に拒否感を持つ方は、私の周りの方
7 や小さな事業を営んでいる方にはおり、チェンジと言えはいうほど逆に離れていってしま
8 う可能性もある。
- 9 ・他人事ではなく自分事に感じられるキーワードや、先ほどあったサブタイトルであった
10 り、今まで受け継いだものを継承させる、発展させるという内容が含まれていると印象が
11 変わる。
- 12 (会長)
- 13 ・その他にご意見はあるか。
- 14 (委員)
- 15 ・キーマッセージは言葉としてダサすぎて、共感性もない。コピーライターを入れたほう
16 がよい。何を言っているか分からない。共通言語としてここまでの話し合いがあるから、
17 チェンジに向けたチャレンジ！が受け入れられるが、初めてこの言葉だけを聞くと、何を
18 言っているのか、という感じがする。既存の概念を継承するという概念が入っていなかつ
19 たり、チェンジすることだけが素晴らしく今のものを大切にしたいという思いを評価しない
20 という判断になっているのはとても勿体ない。
- 21 (会長)
- 22 ・副会長、全体を通してご意見はあるか。
- 23 (副会長)
- 24 ・既存の価値は勿論継承し、新しい価値を見つけていかないと私たち企業も過去の延長線
25 上では未来がない。社会においても過去は結構変化をしてきているのではないか。事業や
26 人間、社会は動いていかないといけない。ある課題で動いていって、過大な投資も県民の
27 意思だったら良いが、今後は今のままだったら無理だと思う。
- 28 ・近江聖人、中江藤樹、近江商人の三方よしを含めた私たちが持っている県民性の誉れを
29 もっと強調したい。
- 30 ・開業率・廃業率の問題で、開業率を大きくしたいのであれば、ベンチャーが大きな要素で
31 はなかろうか。そこには若い人、滋賀大学、龍谷大学、立命館大学等で学ばれた学生が滋
32 賀を選び、滋賀で事業を起こしたいともしっかり肯定的に思ってもらえるよう県がプラットフ
33 ゴームを作ることが大切である。人を呼び込むだけでなく、今居る若い人が滋賀で事業を起
34 こしてもらおうというプラットフォームである。それを言葉としてイメージしたい。
- 35 ・私たちは産学官金連携を今後もやっていき新しいことをやっていきたい。大学でのシー
36 ズはとても重要なので今後も大切に、大学との連携、産学官金連携をより強固にやって

1 いかなければならない。

2 ・SDGs は自然環境が 13 番、14 番と 15 番で、残りは全て人間のことである。人のことを謳
3 っている。世界の貧困や飢餓といわれると何をするのかと難しく感じるが、国内にも貧困
4 層があると経済界でもよく言われている。

5 ・様々な素晴らしいご意見を賜ったが、滋賀県の強みをもう少し強調したらよいという意
6 見があったと思う。また、私たち経営者も過去の価値観では今後うまくいかないという
7 危機感をもっており、新しい価値観を県として持っていつてはどうかと思う。私たち企業
8 人は様々なアイデアを出し新規事業を行うパワーを持っている。そこには規制もあり、緩
9 和に取り組み、特区として産学官金連携で取り組んでいくという課題もある。

10 ・健康しがについては、2025 大阪・関西万博のときに健康しがで手を上げて、企業側も出
11 展ができるのではないかというイメージを持っている。

12 (会長)

13 ・オブザーバーからもご意見をいただければと思うがいかがか。

14 (商工会連合会)

15 ・商工会の構成員は小規模な事業者が圧倒的に多い。2030 年になっても比率は変わらない
16 だろう。現在の産業振興ビジョンは小規模事業者をかなり意識されているが、今回のビジ
17 ョンは事業者の規模の大小にこだわらないとなっており、事業主体の中心になる中小企業
18 が我が事として読んでもらえるのか不安である。中小企業活性化推進条例を踏まえてビジ
19 ョンを改定していくと、どこかに明記すると良いのではないか。

20

21 ●まとめ (会長)

22 ・「チャレンジする人・企業が集まる」「滋賀を実証実験のフィールドに」「健康しが、をビ
23 ジネスに」「滋賀から世界、世界から滋賀へ」をトータルで考えると、滋賀の魅力をどのよ
24 うに据えるかがポイントであると理解した。その魅力は何かというと「健康しが」であり、
25 チャレンジできる環境を県なりが整備し滋賀の魅力で人を集める。

26 ・起業のアイデアは様々な人との交わりのなかで出てくる。一人ひとりのアイデアを重ね
27 合わせ、繋ぎ合わせることで新しいアイデアを作る基本だと理解しているので、多様な人
28 たちが出会える場を作る。意見交換し新しい提案なりアイデアが出来てそれを県が支援す
29 る。そういう場の提供と支援の形態ができて、しっかり滋賀県がお膳立てできればかなり
30 面白いことができる。

31 ・コツコツやるのも一つであり、まずぶち上げてあそこ行けば面白いことができそうだと
32 いうことを発信しながら、来てみれば時間がかかるかもしれないが、しっかりと応援して
33 くれるという土壌があるということが重要である。

34 ・一番気になったのは、京都には来るが滋賀には来てくれないというのが、よく考えると京
35 都の魅力と滋賀の魅力は全く違う。京都に来る魅力は社寺仏閣を見に来て泊まって終わり
36 である。一方、滋賀は体験型、宿泊してじっくり楽しむ、という違いがある。京都に来た

1 近いので滋賀に立ち寄ってというスタンスとは違う。

2 ・いかに違いを発信するか、滋賀の魅力を我々自身もっと理解して発信すれば、もっと違
3 う価値観を持った人が集まり、違う価値が滋賀でさらに根付いてくるのではないかと思う。

4
5 (2) その他

6 (事務局)

7 ・次回の会議は10月18日午後草津市内での開催を予定している。ご出席をよろしくお
8 願いする。

9 ・また、第5回目に向けて、皆さまのご意見をお聞かせいただきながら、「とりまとめ」を
10 作成していきたいと考えている。

11 ・8月以降、個別にご意見をお伺いさせていただきたいと考えているので、よろしくお願
12 いする。

13
14 (会長)

15 ・それでは、皆様よろしくお願います。

16 ・ただいま事務局から報告があったとおり、次回の会議は10月18日午後を予定している。
17 皆様お忙しい方ばかりであるので、ご出席に協力いただくようよろしくお願います。

18 ・それでは、これをもって議事を終了させていただく。

19 ・委員の皆様には議事進行にご協力いただき感謝申し上げます。

20 ・それでは、進行を事務局にお返しする。

21
22 ■閉会

23 (司会)

24 閉会にあたり、森中より一言お礼を申し上げます。

25 (森中)

26 ・2025年の万博に向けて短期にどうやって成果を出していくのか、また、2030年以降にど
27 う成果を出していくのか、短期と長期との両方を考えていく必要がある。

28 ・滋賀県として何をやりたいのか、他の県と違うものは何かを次の審議会に向けてしっか
29 りと議論していく必要がある。

30 ・キーメッセージは、今までのものの承継や、皆でやろうということが分からないので、「チ
31 ェンジに向けてチャレンジ！」だけだと誤ったメッセージになってしまうのではないかと
32 いうご指摘について、次に向けてしっかりと考えていきたい。

33 (司会)

34 ・それでは、これをもって第4回滋賀県産業振興審議会を終了させていただく。